B O O K 書評

『ワクチンと予防接種の全て 見直されるその威力（改訂第2版）』

著者
大谷　明（国立感染症研究所　名誉所長）
三瀬勝利（医薬品医療機器総合機構　専門委員）
田中慶司（東京医科大学　理事長）

2013年4月10日発行

本書は2009年7月に初版が発行されました。著者の大谷先生は国立予防衛生研究所（現国立感染症研究所）の所長を務められ日本ワクチン学会の創始者で長年にわたり日本のワクチンに関わりをもってこられました。ワクチンに関する啓発の重要性から本書の企画をされておられましたが初版の完成を待たずに亡くなられました。その後、三瀬先生が遺稿を整理され未完成のところに加筆され初版が世にでました。3年半の年月が経ちその間にもインフルエンザ桿菌、肺炎球菌、ヒトパピローマウイルス、ロタウイルスワクチンが認可されました。我が国では、細菌感染症は早期診断と有効な抗菌剤の開発により制御可能であると1990年代後半まで考えられていましたが、早期診断は容易ではなく耐性菌の出現からワクチン導入が期待されていました。2008年になってインフルエンザ桿菌ワクチンが認可されると上記のワクチンが矢継ぎ早に認可されました。2007年麻疹、百日咳の流行、2009年のブタ由来のH1N1パンデミックインフルエンザ、2011年の東日本大震災、津波、原発事故後の麻疹の流行、2012年不活化ポリオワクチン導入までの騒動、2013年にはH7N9の出現、風疹の流行、同時接種の問題、複合性局所疼痛症候群とワクチンに関連する多くの課題がでてきました。こうした新規に認可されたワクチンを含め、渡航者用のワクチン、これからのワクチン開発まで含めた個別ワクチンの解説とともに、よく質問される問題についてQ/A方式で詳しく述べられています。

2009年のパンデミックワクチンの緊急輸入をめぐりワクチンへの関心が高まり欧米と比較してワクチンギャップが叫ばれ、ワクチンに関連する書籍、一般の読者への啓発書等が数多く出版されています。著者たちは長年にわたり感染症の基礎研究、ワクチンの検定、審査に関わってこられた経験から科学的な根拠に基づいた信頼できる書となっています。一般の人たち向けにワクチンの啓発、知識の普及を目指した書物となっており、専門的な基礎となる用語がカラムで解説されてはおります。しかしながら、生物系、科学系の基礎力がないとかなり難解な内容と思います。そうした方面は他のやさしい解説書に任せ、モダンメデイアの読者にとって本書はワクチンのことを知るには最適とおもわれます。ワクチンは感染症の発症病態、疫学、感染防御抗原、免疫応答、感染防御能を検討し、科学的な事実に基づき開発されています。100％安全で有効なワクチンはなく、その限界を正しく評価し伝えることが重要です。しかしながら、有効なワクチンがあってもそれを利用する法制度が整ってなければ予防効果はなく、ことに2013年の風疹の流行は今までの風疹ワクチン政策の変更の度に接種すべき感受性者を積み残してきたことや、本来きちんと接種しているはずの人達が受けていなかった事に起因します。ワクチンの功罪は、サイエンスだけではなくマスメディアの主張、社会状況により影響されますが、本書によりブレのない正しい理解を深めていただければと思います。

北里生命科学研究所 所長 中山 哲夫

発行所：金原出版株式会社　営業部　電話 03-3811-7184　FAX 03-3813-0288
定　価：4,725円（本体4,500円＋税5%）